

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	Outcomes of Total Arch Repair for Aortic Dissection using Frozen Elephant Trunk (急性A型大動脈解離に対するフローズンエレファントランクを用いた弓部大動脈人工血管置換術の治療成績)			
2. 対象患者	弘前大学医学部附属病院で以下の期間に急性A型大動脈解離に対して弓部大動脈置換術を受けた患者さんを対象とします			
3. 対象となる期間	1986年4月1日 ~ 2016年 3月 31日			
4. 実施診療科等	心臓血管外科			
5. 研究責任者	氏名	川村 知紀	所属	胸部心臓血管外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	福田幾夫、皆川正仁			
7. 研究の意義	当院心臓血管外科で急性A型大動脈解離に対する手術を受けた患者さんを対象として、大動脈末梢側の解離腔にステント付き人工血管を使用した場合とそうでない場合の手術の治療成績、大動脈末梢側の解離腔の状態を評価することによって、ステント付き人工血管使用の有効性と問題点を明らかにします。			
8. 研究の目的	急性A型大動脈解離は大動脈の全長にわたって大動脈が裂けていることが多いですが、手術は救命を重視して、上行大動脈および脳血管が分岐している弓部大動脈までを人工血管で取り替えることが多いです。人工血管をつないだ末梢の下行大動脈の拡大に対して、将来再手術が必要になる場合がありますが、ステント付き人工血管を下行大動脈に留置しておくことで将来の拡大を防ぐことができる可能性があります。本研究では、急性A型大動脈解離に対して弓部大動脈まで人工血管で取り替えた患者さんに対するステント付き人工血管の有用性を評価することを目的としています。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	対象となる患者さんの年齢、性別、手術の内容、手術時間等の手術関連のデータ、手術中の合併症、集中治療病室在室時間等手術後の経過、採血データ、胸部CTなどの画像データ、入院期間、退院後のCT画像データなどを解析データとして分析します。データの解析は弘前大学内で行い、外部の機関に提供することはありません。			
10. 個人情報の保護	データは匿名化(氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与)し、エクセルファイルで管理します。このファイルにもパスワードをかけておき、二重の保護対策を取ります。 対象患者さんより拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外しデータを削除します。ただし、既に公表済みの場合はデータを修正することはできませんのでご了承願います。			
11. 利益相反に関する状況	なし			
12. 連絡先	胸部心臓血管外科学講座 川村知紀、福田幾夫、皆川正仁			
	電話	0172- 39- 5074	FAX	0172-37 -8340